

## 今期も続く堅調な営業キャッシュフローと事業戦略の推進

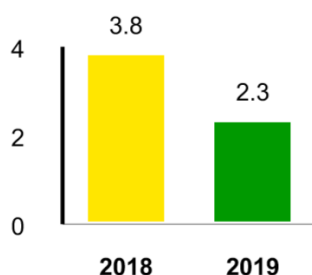
2019年10月29日

BP p.l.c. (ビー・ピー・ピーエルシー)

「石油・ガス価格の低下やハリケーンによる多大な影響があった第3四半期ですが、BPは営業キャッシュフロー、基本的再取得原価利益の両面で好調な業績をあげました。当社は引き続き、財務規律の維持および、安全で信頼性ある操業の実現を経営の柱に据えていきます。また、資産売却計画を強力に進めるほか、急成長を遂げるアジアの下流市場で新たな投資機会を生み出すなど、経営戦略を引き続き前進させています。」 グループ最高責任者ボブ・ダッドリー

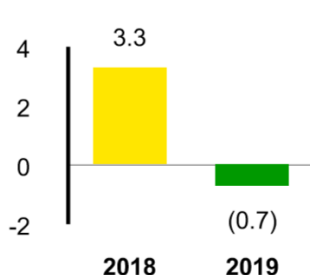
### 基本的再取得原価利益

単位 (10 億ドル)



### 期間利益

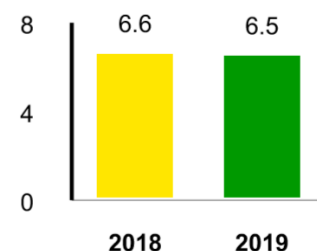
単位 (10 億ドル)



### 営業キャッシュフロー

メキシコ湾原油流出関連の支払金を除く

単位 (10 億ドル)



## 財務業績

2019年第3四半期の基本的再取得原価利益は23億ドルとなりました。これに対して前年同期は38億ドルでした。前年同期比で利益減少となったのは、価格低下に加え、保守整備やハリケーンが影響した結果、上流事業の利益が大幅に低下したことによるものです。

資産売却に関連した非現金の営業外項目は、税引き後で26億ドルとなったことにより、当期は7億ドルの損失となりました。

メキシコ湾原油流出事故関連の支払金を除くと、当期の営業キャッシュフローは65億ドルとなりました。これには、運転資本の減少による資金収支の改善1億ドル（棚卸資産の保有純益を調整後）が含まれます。メキシコ湾原油流出関連の支払金は、税引き後ベースで4億ドルとなりました。

当期における一株当たりの配当金は10.25セントと発表しました。配当金の代わりに株式を受け取るスクリップ配当は、第3四半期は中止されました。

## **上流事業は保守整備と天候の影響を受けたが、下流事業は堅調**

当期における石油・ガスの報告生産量は、石油換算で日量平均 370 万バレルとなりました。これに対し前年同期は石油換算日量 360 万バレルでした。

ロスネフチを除く基本的な上流生産量は、複数地域にわたる保守整備や米メキシコ湾のハリケーンの影響を受け、前年同期比で 2.5%減少しました。

ソロモン調査に基づく当期の製油所稼働率が BP 全体で 96%となったことに加え、米国のホワイトニング、チェリーポイント両製油所で原油精製処理量が過去最高となり、下流事業の業績は好調でした。

## **資産売却は前倒しで進行、下流事業は急成長市場で拡大**

アラスカにおける BP の事業権益の全てをヒルコープ・エナジーに売却する合意を受け、2019 年に発表された資産売却の総額は第 3 四半期末時点で 72 億ドルとなりました。BP では、資産売却総額が年度末までに 100 億ドル程度に達するものと見込んでいます。

下流事業では、インドで燃料販売の合併会社、中国で電気自動車の充電網整備のための合併会社の設立を発表するなど、新市場で引き続き事業戦略を実現しました。

BP は、今後 BP がオペレーターを務める石油・ガス処理の大型プロジェクトすべてにおいて、メタンの連続測定装置を設置していくことを当期に発表しました。